

香 川 県

(香川県農政水産部農業経営課 香川綾香)

1. 新病害虫の発生

(1) トマトキバガ (令和5年7月27日特殊報)

令和5年7月、高松市(高松空港)と綾川町(農業試験場病害虫防除所)に設置しているフェロモントラップにおいて、本種疑義成虫の誘殺が確認された。捕獲された成虫を神戸植物防疫所に同定依頼した結果、トマトキバガであることが判明した。

2. 水稲

(1) いもち病

早短期水稲では、7月上旬から葉いもちの発生が認められた。発生量は、葉いもち・穂いもちともに、平年並であった。

普通期水稲では、葉いもちは7月下旬から発生が認められ、発生量は平年並で推移した。穂いもちは、6月後半以降、気温が高く推移したことから、発生量はやや少なかった。

(2) 紋枯病

早短期水稲では、7月下旬に発生が認められた。7月下旬の発生量は平年よりもやや多かったが、その後は平年並で推移した。

普通期水稲では、平年よりやや遅い8月中旬に発生が認められ、発生量は少なかった。

(3) セジロウンカ

予察灯では、平年並の6月第6半旬に誘殺が認められ、誘殺数はおおむね平年並からやや少なかった。

早短期水稲の圃場では、7月上旬に発生が認められ、発生量は平年並で推移した。

普通期水稲の圃場でも平年と同様、7月上旬に発生が認められ、発生量は平年並で推移した。

(4) トビイロウンカ

予察灯では、平年よりやや遅い8月の第3半旬に誘殺が認められた。誘殺数はおおむね平年並で推移した。

早短期水稲の圃場では、発生は認められなかった。普通期水稲の圃場では、9月中旬に発生が認められ、発生量は平年並であった。

(5) ツマグロヨコバイ

予察灯では、5月第4半旬に誘殺が認められた。5月以降の誘殺数はおおむね平年並からやや少なくなると推移した。

水稲圃場での発生は、早短期水稲・普通期水稲ともに平年よりやや少なかった。

(6) 斑点米カメムシ類

7~8月の予察灯では、アカスジカスミカメはやや少なく、他の斑点米カメムシ類は平年並であった。水稲圃場での発生量は、早短期水稲では平年よりやや少なく、普通期水稲では平年並であった。

(7) コブノメイガ

予察灯では、8月第3半旬に誘殺が認められた。早期水稲の圃場では、発生が認められなかった。普通期水稲では、7月下旬に発生が認められ、発生量は平年並であった。

(8) その他病害虫

5月下旬に小麦上から採取したヒメトビウンカの幼虫の保毒虫率は簡易ELISA法で6.8%と平年並の値であった。

本田初期でのヒメトビウンカの発生量は、早期水稲で平年より多く、普通期水稲で平年並であった。

縞葉枯病の発生量は、早期水稲及び普通期水稲ともに、平年並であった。

3. 果樹

(1) カンキツ・ そうか病

葉、果実ともに生育期間中の発生量は少なかった。発生時期は平年より遅かった。

(2) カンキツ・ 黒点病

葉、果実ともに生育期間中の発生量は少なかった。発生時期は平年より遅かった。

(3) カンキツ・ かいよう病

一部地域の雑柑類で発生が認められた。発生時期は平年並であった。

(4) カンキツ・ ミカンハダニ

発生量は、4月、11月がやや多かったが、その他の月では平年並かやや少なかった。発生時期は平年並であった。

(5)カンキツ・アブラムシ類

発生量は、7月は多く、その他の月は平年並かやや少なかった。発生時期は平年並であった。

(6)モモ・せん孔細菌病

葉では、平年並の4月に発生が認められた。4月の発生量は多かったが、その後は平年並で推移した。果実では発生が認められなかった。

(7)モモ・モモシンクイガ

発生は認められなかった。

(8)モモ・ナシヒメシンクイ

新梢では、平年より早い4月に発生が認められた。発生量は、4～9月まではやや少から平年並、9～10月はやや多から多で推移した。

(9)モモ・モモノゴマダラノメイガ

発生は認められなかった。

(10)ブドウ・晩腐病

発生は認められなかった。

(11)ブドウ・べと病

トンネル栽培ピオーネでは、平年並である6月に葉で発生が認められ、発生量は多かった。その後の発生量は、平年並で推移した。

(12)ブドウ・灰色かび病

発生は認められなかった。

(13)カキ・炭疽病

果実では、平年並である9月下旬に発生が認められた。発生量は平年並であった。

(14)カキ・カキノヘタムシガ

発生時期は平年並である6月に発生が認められた。発生量は少なかった。

(15)カキ・フジコナカイガラムシ

発生時期、発生量ともに平年並であった。

(16)果樹共通・カメムシ類

予察灯での誘殺開始時期は平年より遅かった。発生量は4～9月にかけては、平年より少なく、9～10月は平年より多く推移した。被害の発生量はやや少なかった。

4. 野菜・花き

(1)キュウリ・べと病

夏キュウリでは、平年同様6月から発生し、発生量はやや多から平年並で推移した。

秋キュウリでは、9月にやや多い発生量であった。

(2)キュウリ・うどんこ病

夏キュウリでは、発生を認めなかった。

秋キュウリでは、平年同様9月から発生し、やや多い発生量となった。

(3)キュウリ・褐斑病

夏キュウリでは、平年よりやや遅い7月から発生し、発生量は多く推移した。

秋キュウリでは、平年同様8月から発生し9月までやや少ない発生量で推移した。

(4)キュウリ・アブラムシ類

夏キュウリでは、平年同様6月から発生し、平年並の発生量であったが、7月にはやや少ない発生量となった。

秋キュウリでは平年同様8月から発生し、やや少ない発生量となった。

(5)タマネギ・白色疫病

早生栽培では1月に発生し平年並の発生量となった。

中晩生栽培では発生は認められなかった。

(6)タマネギ・べと病

早生栽培では、平年より早い1月から発生し、1月の発生量は多かった。

中晩生栽培では平年同様4月から発生し、発生量は多かった。

(7)タマネギ・ネギアザミウマ

早生栽培では、平年同様1月から発生し、発生量は平年並で推移した。

中晩生栽培では、平年同様2月から発生し、2月の発生量は多かった。3月以降は平年並で推移した。

(8)春レタス・灰色かび病

発生は認められなかった。

(9)春レタス・菌核病

発生は認められなかった。

(10)春レタス・アブラムシ類

発生は認められなかった。

(11)きく・白さび病

小ギクでは平年同様5月から発生し、やや多い発生量となった。6月から8月までは多い発生量で推移した。

輪ギクでは平年同様6月から発生し、発生量は多かったがその後減少し、以降、発生は認められなかった。

(12)きく・アブラムシ類

小ギクでは平年同様5月に発生し、以降発生は認められなかった。

輪ギクでは平年同様6月から発生し、やや多い

発生量であった。

(13) きく・アザミウマ類

小ギクでは平年同様5月から発生し、9月まで

少ない発生量で推移した。

輪ギクでは平年同様6月から発生し、8月には多い発生量となった。

令和5年度 主要病害虫発生状況(香川県)

単位：ha

作物名(作付面積) 病害虫名	発生面積	摘 要	作物名(作付面積) 病害虫名	発生面積	摘 要
早短期水稲 (5, 661)			モモ (174)		
葉いもち	1,573	並	せん孔細菌病	174	並
穂いもち	1,887	並	モモシンクイガ	0	並
紋枯病	2,202	並	ナシヒメシンクイ	174	やや多
ばか苗病	0	並	モモノゴマダラノメイガ	0	並
もみ枯細菌病	0	やや少	ハダニ類	146	多
稲こうじ病	0	並	ブドウ (154)		
ニカメイガ	0	並	晩腐病	0	並
セジロウンカ	1,573	並	べと病	152	やや多
トビイロウンカ	0	やや少	灰色かび病	0	並
ヒメトビウンカ	5,347	多	カキ (147)		
ツマグロヨコバイ	3,145	並	炭疽病	49	並
斑点米カメムシ類	3,775	やや少	カキノヘタムシガ	12	少
コブノメイガ	0	やや少	フジコナカイガラムシ	135	並
イネミズゾウムシ	3,146	少	夏秋キュウリ (73)		
普通期水稲 (4, 731)			べと病	28	やや多
葉いもち	2,580	並	うどんこ病	10	並
穂いもち	1,505	やや少	褐斑病	23	やや多
紋枯病	2,365	少	アブラムシ類	28	やや少
ばか苗病	0	並	ミナミキイロアザミウマ	27	並
もみ枯細菌病	215	並	タマネギ (185)		
稲こうじ病	645	多	白色疫病	2	並
ニカメイガ	215	並	べと病	126	やや多
セジロウンカ	2,150	並	ネギアザミウマ	180	並
トビイロウンカ	215	並	春レタス (95)		
ヒメトビウンカ	4,516	並	灰色かび病	0	少
ツマグロヨコバイ	3,441	並	菌核病	0	やや少
斑点米カメムシ類	2,795	並	アブラムシ類	0	並
コブノメイガ	2,150	並	ヨトウガ	0	並
イネミズゾウムシ	215	少	きく (44)		
ムギ類 (3, 357)			白さび病	24	多
うどんこ病	0	並	アブラムシ類	5	やや多
赤かび病	107	並	アザミウマ類	14	並
かんきつ (1, 336)					
そうか病	0	少			
黒点病	148	少			
かいよう病	5	並			
ミカンハダニ	371	並			
アブラムシ類	593	並			